

# 全ての場所が世界の真ん中 — $\frac{1}{100,000}$ 妻有

2014年7月19日(土) — 2014年10月13日(月祝)

信濃川、越後の土、落葉広葉樹、集落、濃密な風景、トンネル、縄文土器、染織物、地勢や歴史をテーマとした常設作品群を有する越後妻有里山現代美術館[キナーレ]。地域そのものを施設に埋め込み、世界・現代・地域・里山が交錯する美術館を目指しています。

越後妻有の里山に点在する約 200 の小さな集落。その一つ一つ、「全ての場所が世界の真ん中」。この言葉は、松代地区蓬平集落で3年に1度お披露目されるマーリア・ヴィルツカラの作品タイトルでもあります。そして、約15年にわたる大地の芸術祭の活動の思いを端的に表現してくれています。

今回の企画展は、約10年の歳月をかけて育まれてきた、それぞれの集落の珠玉のアートプロジェクトを美術館に持ち込み、美術館を一望することで越後妻有の里山や集落を巡る旅を体験していただける展覧会を目指しました。アートプロジェクトを通して見る $\frac{1}{100,000}$ の越後妻有、里山のショールームです。

注目は、1年半の歳月をかけて四季折々の表情を見せる里山の風景を撮り下ろした、石川直樹の写真を初公開。石川が捉えた里山に生きる人々の生活、風景とアート作品との共鳴をご高覧下さい。

また、いよいよ来年に開催を控える「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015」に向けて、新作の公開制作やワークショップなども開催します。

参加アーティスト：(五十音順)

石川直樹、キジマ真紀、佐藤香、蓮沼昌宏、原広司+工学院大学藤木研究室+F.A.D.S、日置拓人+木村謙一、日比野克彦、丸山純子、武藤亜希子、森野晋次(気流部)

コレクション展示)

ゲルダ・シュタイナー&ヨルク・レンツリンガー、レアンドロ・エルリッヒ、カルロス・ガライコア、エルムグリーン&ドラッグセット、カールステン・ニコライ、山本浩二、栗田宏一、カールステン・ヘラー、クワクボリョウタ、眞田岳彦、マッシモ・バルトリーニ feat.ロレンツォ・ビニ

会期 | 2014年7月19日(土) — 2014年10月13日(月祝) | 水曜休館 (8月13日は開館)

開館時間 | 10:00-17:00

鑑賞料 | ¥1,000 (団体¥800)、小中学生¥600(団体¥400)

関連プログラム「越後妻有 2014 夏 — 祭と宴の10日間」パスポートをお持ちの方は無料

助成 | 平成26年度文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

協力 | エプソン販売株式会社

クロストーク | 2014年8月14日(木) (石川直樹×日比野克彦×北川フラム)

会場:越後しなのがわバル(美術館内) 16:00 受付開始 16:30-17:30

美術館チケット、越後妻有 2014 夏パスポートをお持ちの方は無料 (チケット無 ¥1,000) ※ 要申込み

関連プログラム | 越後妻有 2014 夏 — 祭りと宴の 10 日間

会期:2014 年 8 月 1 日—31 日 (祭りと宴の 10 日間: 8 月 8 日—17 日)

料金: 越後妻有 2014 夏パスポート 大人 2000 円、小中学生 ¥1,000

内容 |

## 石川直樹 越後妻有の四季 (仮)

2011 年から 1 年以上をかけ、里山の春の息吹から豪雪の冬までを撮り下ろした越後妻有の人々の営み。自然に人間の手を加え、折り合いをつけてきた里山の暮らし。人間と自然の境界を探し、そのボーダーラインをカメラに収めた作品を初公開。

アーティストトーク:8 月 14 日



## キジマ真紀 Fancy Garden(仮) ※未定 1 両日中に確定

2009 年 松代エリア小荒戸集落<sup>こあらと</sup>で、Fancy Garden を制作してから、集落との継続的な交流を続けるキジマ真紀。越後妻有の大自然の中で、ケミカルな素材を用いたキッチュな花畑は、その鮮烈な対比が記憶に新しい。

小荒戸集落の人々とともに、新たなFancyGardenを作る。

ガーデンワークショップ: 〇月〇日



## 佐藤香 生まれる、または還る

福島県の自宅の土で描いた「私の故郷、福島」でデビューした佐藤香。

その土地固有の土が持つ意味にこだわり、足元を見つめる。

今回の企画展では、「私の故郷、福島」を展示すると同時に、来年の芸術祭に向け、作品制作を始動させる。土をテーマに展開する下条地区の土を用いて、会期中、巨大な壁画を公開制作する。

土採集ワークショップ: 6 月下旬~7 月初旬 (他 随時)

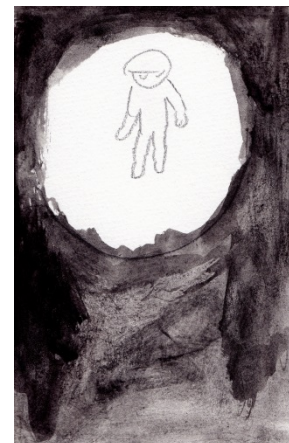
公開制作期間: 8 月 1 日~31 日



## 蓮沼昌宏 トンネル技師の夢

越後妻有に散在する様々な物語を 12 ヶ月/12 編に再編し、芸術祭 2015 で発表予定の蓮沼が、12 編の内の 2 編を先行公開。タイトルの「トンネル技師の夢」は、そのうちの 1 編。古典的なアニメーション装置「キノーラ」の原理を用いてパラパラマンガのように鑑賞できる。会期中、地元の方の語り部を探し、物語を聞きながら作品を制作する様も公開する。

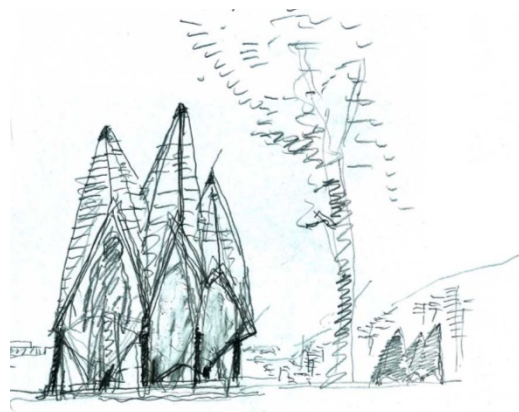
作家滞在期間: 8 月 11 日—17 日



## 原広司+工学院大学藤木研究室+F.A.D.S Three Travelers

越後妻有里山現代美術館 [キナーレ] の生みの親であり、地域に根ざし自然と一体化した多様な集落(メキシコの木柵の村、イラクの家族島集落、アフリカのサバンナの集落など)を訪れ、それぞれの個性と共有関係を考察した名著『集落への旅』の著者である建築家原広司。旅人の姿を象った東屋 <sup>あずまや</sup> Three Travelersの制作を、オーストリアの田園集落ライデンと日本の里山越後妻有で同時始動。期間中、プロトタイプを公開制作する。

公開制作期間：8月1日～31日(予定) 制作：工学院大学藤木研究室



## 日置拓人+木村謙一 <sup>ひかりかご</sup> 土の光籠

十日町エリア下条地区では「土」にまつわるさまざまなアートプロジェクトが展開されてきた。その代表とも言える「うぶすなの家」は、土の結晶「やきもの」で再生された古民家で、地域のお母さんたちの手料理が食べられる大人気スポットだ。今回の企画展では、下条地区に関わる土チームが、土で光籠を制作。越後妻有に生える雑木を柱にして、縄を結わえ編み、土を塗った空間をつくる。昼間は内側から、夜は外側から、土と縄とその隙間からもれる光を楽しむことができる。

公開制作期間：6月30日～7月14日



## 日比野克彦 明後日朝顔プロジェクト

2003年 松代地区 <sup>あざみひら</sup> 蒔平集落で誕生した明後日新聞社文化事業部。集落の方たちとの交流のきっかけ探求中で生まれた「朝顔プロジェクト」は、10年を経て、全国29ヶ所に広がっている。蒔平で生まれた小さな朝顔の種が、人と人、人と地域、地域と地域をつなげて、そのネットワークを広げてきた。

今回の企画展を機に、全国の明後日朝顔チームからの応援を得て、十日町明後日朝顔プロジェクトが始動。総長 200mの明後日朝顔が、正方形の中池をシンボリックに取り囲む。

ロープ張&苗植えワークショップ：7月6日 10:00～

アーティストトーク 及び 朝顔スケッチ大会 :8月14日



## 森野晋次(気流部) 時の封-妻有 2014.5～

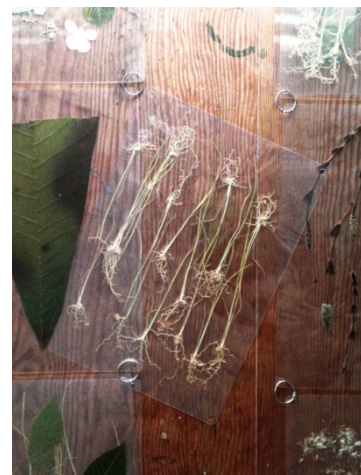
越後妻有には様々な植生の中で、季節と共に移り変わる豊かな自然の色と形がある。これから1年を通して植物を採集し、ラミネート加工したプレートを連ねる「時の封-妻有プロジェクト」を芸術祭2015に発表する。

今回の企画展では、内部と外部の「間(あわい)」の世界であるガラス面に展示するとともに、ワークショップも開催します。

植物採集「プラントハントをしよう!」：8月8日 13:00～ 参加費無料

植物パウチでお手紙を「風の便りを出そう!」：8月9日、10日 14:00～

※参加費 ¥200 (切手代、材料代)



<イベント・ワークショップ>

## 丸山純子 空を見上げる

その土地で出た廃油を集めて、石鹼を作り、石鹼粉で大地の絵を描く。

雨が降ったら消えてしまう儚い石鹼粉の絵は、私たちのさまざまな思いを昇華してくれる。

越後妻有の廃油を再生し、絵を描き、その全てを消し去り昇華させる雨。

空を見上げる。

石鹼作りの公開制作（回廊部分）：7月25日 - 8月17日

石鹼粉による床絵：8月8日 - 17日



## 武藤亜希子 T + S + U + M + A + R + I のかけらミュージアム

2006年から市街地の方たちと、着物の端切れなどを用いたソフトスカラプチャーによる

作品を作っている武藤亜希子。来年の芸術祭に向けて、縄文土器の制作を始動。

十日町の着物と、縄文土器をモチーフに、地域のカケラを作るワークショップに

参加しよう！

カケラ制作ワークショップ：8月11日、12日、13日、14日



※各ワークショップの詳細は、ホームページを参照下さい。

越後妻有里山現代美術館[キナーレ] <http://smcak.jp/>

大地の芸術祭の里 <http://www.echigo-tsumari.jp/>

お問い合わせ・ワークショップお申込み：

越後妻有里山現代美術館[キナーレ] 電話=025-761-7767

E-mail = [info@tsumari-artfield.com](mailto:info@tsumari-artfield.com)